

# Kindai Hospital Today

## 金沢大学病院 ニュース

平成14年3月29日発行 金沢大学医学部附属病院 〒920-8641 金沢市宝町13-1 TEL076-265-2000

Kindai Hospital Today  
第4号  
2002

### 平成14年度より

# 病院長



# ベスタ

## 医の心、癒しの心

附属病院長 河崎 一夫

病氣という如く、患者は「氣」を病んでいる。わがままな患者に腹立つこともおありと思う。このような時にこそ、「何故か？」と患者の心に思いをはせてほしい。必ず何らかの不安とこれに余人が添ってくれない不満が潜んでいる。医療人から見ても不安不満であっても、患者自身は正當な不安不満と確信している。「孤独ではない」「自分と一緒に泣いてくれる人がいる」と患者が思うだけで、患者は救われる。「もつとかまわってほしい」「治療結果に不満」「冷たく言われた」「医療費の不安」etcの何らかの不安不満を患者はストリートに言えずに、変形して表現すると知ってほしい。

「患者の心」に伝えたいとの想いは医療人に共通の願いであろう。しかしこれは言うは易く、行うは至難である。日常業務に忙殺されて、「患者の心」に思いを到さず、「医の知と技」のみで足りていないだろうか？直接言えない不満は匿名の投書や手紙で来る。2年間で387通に達した。お褒めの内容は極少（5%）で、他は全て苦情である。苦情の対象を職種別にみると、医師（39%）が最多で、以下委託業務を除外すると看護部、事務窓口、薬剤部・検査部と続く。不満内容の第1位（27%）は接遇であり、以下診療、施設、待ち時間、清掃、サービスと続く。すなわち医療内容自体よりも不誠実な言動への怒りが最も多い。午前4時に耐えかねて来院して、医師に「もうすぐ外来が開くのに、何故こんな時間にくるのか」と言われた患者から厳しい叱責をいただいた。「唯心を去れ」とは、安政の獄で捕らえられ24歳で斬首された幕末の越前藩士橋本左内の至言である。院長として2年間、病院職員皆様に厳しいことのみ言い続けた。今病院を去るにあたり、全職員に御寛容を乞い、深甚の感謝を捧げる。

### ご存知ですか？

国保、社保、老保の他に、左記のような多種の医療費補助制度があることを御存知ですか？患者の「医療費の不安」を合法的に減らす配慮も医療の一部と心得て下さい。身体障害者福祉法、特別障害者手当、障害児福祉手当、特別児童扶養手当、児童扶養手当、心身障害者扶養共済、障害基礎年金、障害厚生年金、児童福祉法（育成医療）、更正医療、特定疾患（難病）指定、心身障害者医療、生活保護法（医療扶助）、結核予防法、高額療養費委任方式



（その2）熱源をほとんど電化した厨房（西病棟地階）



（その1）防災センター（東病棟1階）

新病棟の新鋭設備の



# 病院長就任あいさつ

小林 健一



なりません。経済的裏打ちは不可欠必須であります。医療事務の効率化も言うまでもなく極めて重要な課題であります。医師会との連携により、これまで以上に力を合わせて地域医療の向上、発展に努力する事が肝要であります。

この度河崎一夫院長の後任として病院長を拝命致しました。21世紀も早一年が過ぎ、医療環境は一層厳しい状況にあります。河崎病院長は即断、有言実行を旨として存分に手腕を発揮されました。去る昨年10月1日には188億円という巨費を投入した全国屈指の病棟がめでたくオープン致しました。更に中央診療棟、外来診療棟建築への補正予算も認められました。文字通り病院にとつては順風満帆、日の出の勢いであります。私は次の5つの目標に向かって邁進、汗を流す所存であります。(1)来る2年後の独立行政法人化、いわゆる「独法化」への高度先端医療を中心とした対応、(2)新病棟にふさわしい中央診療棟ならびに外来診療棟の設立、(3)2年後開始される新しい卒後臨床研修の充実、(4)電子カルテ等を活用した事務の効率化、(5)石川県並びに金沢市医師会とのより密接な連携等々であります。

独法化につきましては、未だその姿が明らかとなつてはいませんが遅れることなくむしろ、より積極的に情報をキャッチし柔軟に対応し、納得のいく「半官半民」の姿を作り上げた力を尽くしたいと思っております。中央診療棟、外来診療棟の新築につきましては病棟建築時と異なり、面積等より一層厳しい環境にあります。可能な限り、病棟に見合うものを立ち上げねばなりません。すなわち患者さんにとって明るく豊かなアメニティを備えた、当院のモットーであります、バリアフリーの空間を目指します。卒後臨床研修につきましては、実のある優れたカリキュラムにより、実践的な医師としての基的能力が獲得されねば

なりません。経済的裏打ちは不可欠必須であります。医療事務の効率化も言うまでもなく極めて重要な課題であります。医師会との連携により、これまで以上に力を合わせて地域医療の向上、発展に努力する事が肝要であります。

昨今毎日のように医療事故が報道され世の人の医療に対する不信感を募らせています。幸い当院は安全対策がしっかりと整備され、世間の耳目を集めるような不祥事はここ数年間生じていません。ハイリッヒの法則によれば、ある種の労災事故では、事故で1人死亡すれば同様な事故で負傷生存している人が約29人おり、さらにあわやその事故にあいそうになった人、つまりニアミス例が約300人いるという法則があるとされています。災害は忘れた頃にやってくるどころか忘れぬ内にやってくる全員がそれぞれの胸に深く刻んで常時行動されるよう切望致します。

病院経営については、当院は病床稼働率こそ全国トップクラスであります。残念ながら在院日数が長すぎる点、紹介率が低すぎる点ともに芳しくありません。ここは、皆様方の脳髓を絞って頂き稼働率と合わせ「三冠王」と成るべく対応して下さるようお願いいたします。

今申し上げました全ての目標の遂行に当りましては、皆様方の御知恵を結集し当院唯一の自主的収入源であります病院収入、因みに昨年度は145億円、を有効に生かしつつ病院のみならず、医学部はもとより金沢大学全体の運営に寄与すべく心を砕いて参らねばなりません。

本院は医学部とともに135年間の永きに亘って診療・研究・教育を中心に伝統ある歴史を培って参りました。21世紀に入り新病院の完成はもとより、内容ある国際化、グローバル化の方向に向けて、環日本海の雄として、新しい芽を皆様とともに繋げたく心から念じ、宝町キャンパスの輝きをさらに増すべく尽瘁する覚悟であります。

## 副院長(医療安全対策担当)を 辞すにあたって

副院長 小林 勉



私は、平成12年4月より、副院長として本院の医療安全対策を担当させて頂いた。本年3月末には定年で金沢大学を辞すが、世間を騒がすこともなく無事に過ごすことが出来た。これは、事故防止対策委員会のメンバーをはじめ、全職員の方々の安全に対する努力のおかげであり、心から感謝している次第である。しかし、事故防止を強調したことが、診療における積極性を殺がなかつただろうか。危惧に過ぎないことを願っているが、種々の安全対策が診療の消極性を招いていたとしたら、私は大きな過ちを犯したことになる。

医療の積極性と安全性に關し、30数年前、未熟児の治療について争われた裁判の記事が今でも私の記憶に残っている。未熟児は、しばしば呼吸窮迫症候群と呼ばれる重症の呼吸不全に陥る。担当医は、呼吸不全に対して最大限の努力をした結果、命を救うことに成功した。しかし、生命を救うために用いた高濃度酸素のために、未熟児網膜症が発生し、患児は失明してしまつたと言ふ不幸な事件であつた。この際、積極的な呼吸管理を見合わせたとしたら、患児は死亡したと予想されるが、訴訟されることはなく、非難を受けることも無かつたと思われる。担当医は、医師の良心に従い、最大の努力をして生命を助けた結果、一部の人がから批難される結果を招いた訳である。

「可能性を助長しているように思えてならない。2年間の副院長在任中、医療の安全を守るために、いろいろな対策を実施してきた。もし、これらの対策の中に医療の積極性を殺ぐと思われるものが有れば、改めたいと考えるので何時でも申し出て頂きたい。

医療の安全を担当している職掌上、幾人かに對しては、注意を促すための苦言を呈したこともある。中には大変に失礼なことを言つたかもしれないが、個人的な意向は全くなかったことを理解して頂きたい。その際にも、日頃の診療が消極的にならないように配慮した積もりである。我々は、医療人としての良心とヒューマニズムに従つて行動すべきである。個々のケースでは、世論と良心の間に段差が生ずる場合も起こり得よう。しかし、良心に従つて診療を行つていけば、やがては世論も認めてくれると私は信じている。

「日新・又日新」(日々新たに、また日に新たなり)という言葉が大学(中国の古典)に記載されている。これは、日々初心に帰り、マンネリズムに陥ることを戒めたものである。私は教室員の結婚に際しこの言葉を新夫妻に送ってきたが、医療の安全にも通ずるのではないだろうか。皆様にもこの言葉を送り、副院長を辞す挨拶に代えさせて頂くことにする。

## 永年に渡り病院に勤務され 今春、退職される方々の横顔



医事課  
専門職員  
釜田 茂喜



副院長  
麻酔科蘇生科  
小林 勉



病院長  
眼科  
河崎 一夫

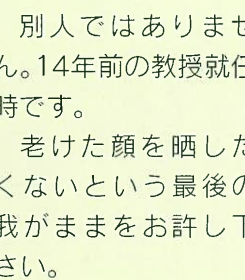
別人ではありません。14年前の教授就任時です。老けた顔を晒したくないという最後の我がままをお許下さい。



栄養管理室  
栄養士  
石田 洋子



旧第三内科  
技術専門職員  
亀田 豊明



病院長  
眼科  
河崎 一夫



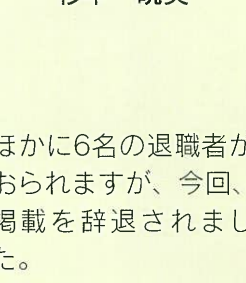
看護部  
副看護婦長  
杉本 暁美



検査部  
主任技師  
上尾友美恵



放射線部  
技師長  
田村 鋒男



看護部  
副看護婦長  
杉本 暁美

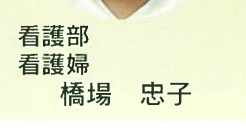


検査部  
主任技師  
上尾友美恵

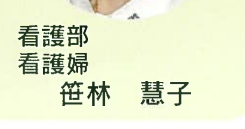


放射線部  
技師長  
田村 鋒男

ほかに6名の退職者がおられますが、今回、掲載を辞退されました。



看護部  
看護婦  
橋場 忠子



看護部  
看護婦  
笹林 慧子





# 中央診療棟の建設計画

平成13年度補正予算で、中央診療棟の建設が認められ事務局の施設部で中央診療棟・外来診療棟の基本計画を策定し、文部科学省と協議中です。順調に進めば平成14年3月中に基本計画が承認される見通しとなっており、次の段階となる中央診療・外来診療棟の基本設計及び中央診療棟の実施設計に進みます。

今後の予定として、4月ごろから本格的な建物設計に向けて各診療部門等のヒアリングを行うこととなります。詳細なスケジュールについては、次回の「Kindai Hospital Today」でお知らせします。

## 旧第1病棟 移行改修・旧病棟の取壊しスケジュール

区 分	2月	3月	4月	5月～7月	8月～9月	9月～
1 移転先の各階配置	○配置決定					
2 各部門改修 ヒアリング	○各部門のヒアリング					
3 設計・契約		○設計	○契約			
4 改修工事				○改修		
5 移転					○移転	
6 取壊し						○2、3、5、6病棟の 取り壊し

旧第1病棟改修後、旧第6病棟を中心に次の部門等が「旧第1病棟」に移転します。

旧第2病棟→内科  
(旧がん研内科)  
外科  
(旧がん研外科)  
旧第6病棟→放射線部、作業療法部、輸血部、神経内科、薬剤部、血液浄化療法部、内科(旧1内、2内)

## 割れた窓 理論とは？

凶悪犯罪の代名詞となっていたニューヨークの地下鉄では、落書き消しと無賃乗車の徹底取り締まりを行った結果、これらの軽犯罪のみならず、殺人、傷害、強盗、恐喝、婦女暴行などの凶悪犯罪までもが激減したそうです。これは実は「割れた窓」理論が実証された出来事でした。

割れた窓が放置されていると、そばを通りかかった人は、誰も責任をとっていないと思います。そして他の窓も割れ、周囲には無法地帯の雰囲気がい始め、誰かがそこで犯罪を犯す。一度犯罪が起これば、その界限はますます荒廃し、どうしようもない無法地域になって行く。実は、犯罪に限らず人の行動の多くは、このように感染症としての性質を持っています。

タバコも、その健康への害が知られる前、医師を含む比較的経済的に恵まれた人たちがまず吸い始め、その後爆発的に大衆に拡がって行きました。しかし、現在では少なくとも医療者の間では、喫煙が喫煙者と周囲の人の身体や精神の健康に有害であることは常識となりました。となると、現在医療者がタバコを吸い続けること、病院が院内での喫煙を容認することは、取るに足らないことのように見えるかも知れませんが、実は放置された「割れた窓」なのかも知れません。

この「割れた窓」を根気強く修理して行けば、「喫煙という感染症」を収束に向かわせることも可能である、ニューヨークの地下鉄がそう教えてくれているのかも知れませんね。

## 編集部に対する 御意見に関する Q&A

Q：以前の新聞（病院だより）に比較して、紙面がカラーになり、紙質も向上し部数も増大している。病院全体として経費削減を唱えている今日、時代に逆行していませんか？

A：カラー印刷代、紙質の向上、部数の増大に伴いまして、確かに、1回当たりのコストは増加しております。しかし、以前は年6回発行していたものが、現在は年4回発行としたことで、総額はさほど大差はありません。何よりも新聞に対する皆様方からの反応は増しており（お誉め、御批判とも）、その時その時の当院の問題に対して、新聞を通して広範に職員の方々に知って頂くという主旨にはそつたものと考えております。14年度は通年的に独法化や新中央診療棟や外来棟の話題などを記事にして行き、職種を問わず問題意識を共有できれば良いなと考えております。（編集部）

日付	所属・官職	氏 名	異動内容
13.12.31	皮膚科 助手	永岡 徹也	辞職
"	旧第一内科 医員	増富 健吉	"
"	看護部 准看護婦	村濱 静子	"
"	医事課専門職員	塩屋恵美子	"
14.1.1	整形外科 医員	三崎 智範	採用
"	管理課経理係員	坂井 和範	"
"	総務課人事係サービス主任	熊谷 直美	転入 医学部から
"	管理課監査係員	濱本安紀子	転入 理学部から
"	医事課専門職員	大田 悦子	転入 教育学部附属学校から
"	総務課人事係員	西尾都代子	転出 石川高専へ
"	管理課監査係員	大村 和美	転出 教育学部附属学校へ
"	管理課経理係員	福田外志恵	転出 理学部へ
14.1.31	麻酔科蘇生科 医員	神代 理加	辞職
"	歯科口腔外科医員（研修医）	狩野有希子	"
14.2.1	旧がん研外科 講師	表 和彦	昇任
"	旧第一外科 医員	田畑 茂喜	採用
"	看護部 看護婦	加藤 可奈	"
14.2.28	旧第二内科 医員	武藤 寿生	辞職



金沢大学医学部附属病院小児科オリジナルTシャツを売店で販売しております。売り上げの一部は金大小児科難病研究基金となります。

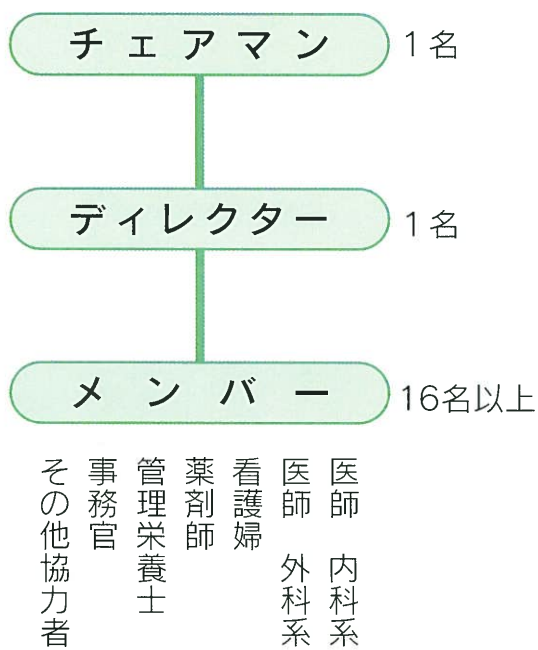
## ユーアイ・サイビニュース



# 当院に国立大学病院で初の 全科型NST誕生

栄養管理室長 大谷 幸子

図1  
《NSTの組織》



チームとなり取り組むことが重要です。既に他院で活動中のNSTの成果として在院日数の短縮、ICUにかかる経腸栄養法の普及による医療費の節減、カテーテル敗血症の減少などが報告されています。

当院で発足するNSTの役割と成果については今後の活動に期待してください。当面の組織（図1）及び具体的な活動（図2）は図のとおりで、チェアマンの大村健二先生（心肺・総合外科）を中心にメンバーの面々が各病棟へ出入りさせていただくことになるかと思ひます、どうぞご理解をお願いいたします。

NSTのメリットばかりをPRしましたが、悩みはお金も人手もかけず各科・部の持ち寄りチームであり、日常業務に忙殺されるメンバーの時間不足です。少しでも多くの熱意ある（ウー）メンバーを歓迎いたします、是非栄養に興味のある方はお申し出下さい。また今後、栄養療法に関する勉強会も定期的に行う予定です。ふるってご参加下さい。

去る2月13日の科長会において、本院に全科型NSTの発足が承認されました。NSTとは Nutrition Support Teams の頭文字をとった略称で、栄養管理を支援するためのチーム、の意になります。

表1のように、近年、入院患者の約40%に栄養不良者が存在することが明らかとなりました。低栄養状態で医療行為を行う場合、感染性合併症の発生頻度の上昇や創治癒の遅延などが危惧されます。また、低栄養状態にみられる骨格筋や腸管上皮の蛋白崩壊は、患者様の活動能力や消化吸収能を確実に低下させます。

そのような状態を改善せずに早期退院を促せば、退院後の社会復帰を遠ざけることになりかねません。

栄養管理の重要性は、内科や外科の患者様に限ったものではありません。重度熱傷症例、褥創症例、放射線療法施行例、癌化学療法施行例、神経性食思不振症例などは、いずれも適切な栄養管理を必要とします。また、栄養管理の対象は静脈栄養や経管栄養ばかりでなく、経口摂取の栄養流動食から固形食に至るすべてを含みます。したがって、栄養管理には医師、看護師、薬剤師、栄養士、事務など多くの職種が一つの

表1

たんぱく質・エネルギー低栄養状態の出現状況

全国9地域15病院の入院患者	女性722名、男性326名
福井県内9病院の在宅訪問患者	女性102名、男性77名
福井県内10病院の外来受診患者	女性140名、男性128名
熊本県N人間ドック受診者	女性446名、男性610名

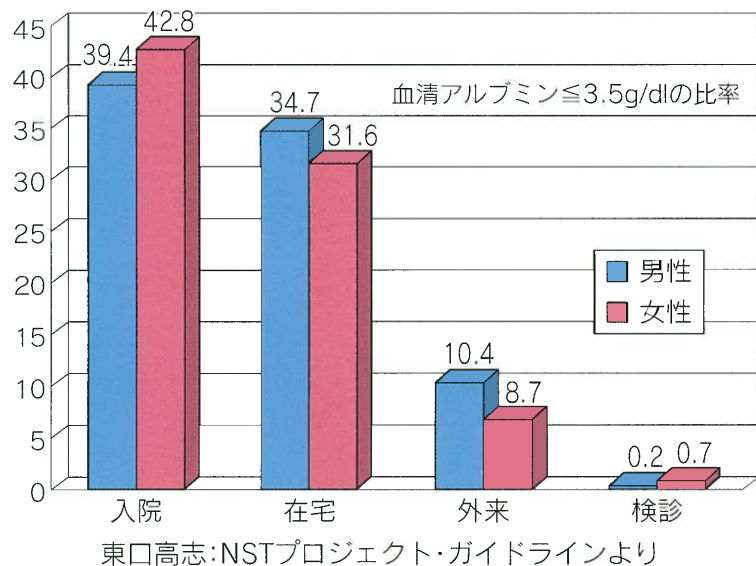


図2

《NSTの活動内容》

## 毎日行うこと

- ①病棟からの栄養コンサルトの依頼を受ける
- ②緊急性の高い症例から直ちに栄養療法の実施

## 毎週行うこと

- ③特に問題のある症例に対し症例検討を行う
- ④NST管理の患者に対し回診を行う

## 随時行うこと

- ⑤病棟から栄養に問題がある症例の報告を受ける
- ⑥入院患者の栄養スクリーニングを行う
- ⑦院内全職員対象に勉強会（金沢 Nutrition Club）を開催
- ⑧静脈及び経腸栄養剤使用量の動態調査を行う
- ⑨NSTの成果をまとめる



松井選手（巨人）から  
激励のサインが来たぞ！

平成14年1月16日（水）  
シンポジウム「チーム医療を行うために  
—他部門の理解と連携—」を実施  
（参加者数：371名）（写真）



編集  
後記

春がすぐそこまで近づいた今日この頃、皆様の職場でもお別れの季節となっていることと思います。本号は退職者及び新任者特集号とさせていただきます。

財政厳しきおり、新院長先生のもと、職員が一丸となってこの難局を乗り切れる様、KINDAI HOSPITAL TODAYもお役に立てればと考えております。取り上げたい問題、身近な疑問等何でも編集部まで御提起頂ければ幸いです。

富田勝郎・岡田俊英